

広報

青少年おきたま

第54号

令和7年3月1日



「生徒会活動における対話」の発表



活発なワークショップ



話し合いの振り返り

世代を超えて語り合う「高校生と地域の大人の対話会」 テーマ：SNSとの上手な付き合い方

12月22日(日)、長井高等学校を会場に「高校生と地域の大人の対話会」が開催されました。各グループのワークショップでは、SNSのメリット、デメリットや利用の際の注意点を考えることを通して、世代を超えた活発な交流が生まれました。SNSのよさを生かすためには主体的に考え適切に判断する、ネットだけではなく直接的な関わりも大切にする、困ったことが起こったら信頼できる人に相談するなど、SNSの適切な活用のために必要なことが明らかになりました。

自分の考えを持ち堂々と発言する長井高校生と、ファシリテーターを務めていただいた長井市青少年育成推進員を始めとする参加者の皆様が、世代を超えて和やかな雰囲気の中で真摯に語り合う有意義な対話会になりました。

置賜地区青少年育成連絡協議会



山形県青少年健全育成県民大会

令和六年十月二十七日(日) 村山市民会館

青少年を取り巻く社会情勢は大きく変化しており、近年はスマートフォンやスマートフォンの急速な普及、闇バイトや薬物乱用の問題などにより、青少年の健全育成への影響が懸念されています。このような現状を踏まえ、青少年健全育成に携わる皆様が一堂に会し、課題の共有を図るとともに、問題解決や実践活動への決意を新たにするために、県民大会が開催されました。

式典では、長年青少年活動に尽力された十四名の方々が表彰され、置賜地区からは、青少年育成成功労者として、土屋博様(米沢市)が受賞しました。また、「いじめ防止」県優秀標語に選ばれた、内山千咲登さん(高島町立高島中学校三年)が受賞しました。



いじめ・非行防止セミナー

◆少年の主張発表

山形県少年の主張大会で最優秀に輝いた、井上愛奈さん(白鷹町立白鷹中学校三年)による、「障害を乗り越えて」と題した発表がありました。部活動に

打ち込んだ日々、自らの経験から生き方を考え、未来を切り開いていくという強い意志が表れた堂々たる主張発表でした。井上さんは、北海道・東北ブロック代表として全国大会に出場し、審査委員会委員長賞を受賞しました。

◆事例発表

「子どものウェルビーイングを求めて」特定非営利活動法人クリエイトひがしね理事の三浦通夫氏による事例発表では、遊びを通して心を育てる素晴らしい取り組みをお聞きしました。遊びは人間形成の基盤であり、学びや生き方につながるものです。青少年育成活動には多様な考え方や活動方法があることを実感する発表でした。

◆記念講演

「でっかい子育てで子育て」講師の中村文昭氏(クロフネカンパニー代表)から、ユーモアを交えながらの楽しく学びの多いお話をお聞かせいただきました。中村氏は人との出会いとポジティブな考え方を大切にしてきました。その生き方の根幹をなすのは「聞いた言葉で心がつくられる、はき出す言葉で未来がつくられる」ということです。会場の皆様の心に響く講演でした。

山形県の未来を担う青少年が、豊かに成長することを願い閉幕しました。

“いじめ・非行をなくそう” やまがた県民運動

令和6年度 置賜地区「いじめ防止」標語

◆参加校 66校
 小学校47校 7,599名
 中学校19校 4,416名
 (特別支援学校を含む)
 ◆応募総数 12,015点

いじめ防止標語
最優秀
 きっとある 優しい心
 誰にでも
 高島町立高島中学校三年
 内山 千咲登さん

優秀

- たすけあう ぼくもうれしい ともだちも
 米沢市立塩井小学校2年 和田 詠翔 さん
- 「やめようよ」 いえるゆうき まずはぼく
 飯豊町立第二小学校1年 土田 登俐 さん

入選

- ネット上 ワンクリックに 責任を
 南陽市立宮内中学校2年 木村 奏 さん
- あなただよ きずつけるのも すくうのも
 川西町立吉島小学校5年 笹木 禄郎 さん
- ぼくのふつう きみのふつう みんなちがうよ
 長井市立長井小学校6年 山口 大河 さん
- 一人じゃない わたしもいるよ 大じょうぶ
 小国町立小国小学校3年 川上りあね さん
- 強さとは 相手を思う 心の強さ
 白鷹町立荒砥小学校3年 梅津 七星 さん

ボードゲームは

世代を超えて

講師 小野 卓也氏
青少年育成連絡協議会研修会

九月十一日(水)、置賜総合支庁講堂にて、第二回置賜地区青少年育成連絡協議会が開催されました。研修会では、三峯山洞松寺住職の小野卓也氏よりご講演いただきました。

子どもたちがボードゲームに取り組むことによる効果として、やる気や社会性が育まれること、ルールの大切さを知ること、思考力が高まることなど、非認知能力の高まりが期待されることを学びました。その後、実際にボードゲームを体験してみると、初対面の相手であつてもすぐに打ち解けることができ、人と人が対面でつながり合うことこのよさを実感することができました。

子どもたちとの人間関係を深め、本音を引き出すためには、心理的距離を縮めることが大切です。青少年の健全育成を推進するためには、つながり合うことを大切にしたいものです。



「子どもを取り巻く

大人たちのアップデートを」

高島町青少年育成町民会議
会長 清澤 穰



青少年の健全育成を目的とした事業はさまざまな形で実施されていますが、

その事業単位で得られる効果は概ね「瞬間的」なものであり、結局は日常的に子どもたちと接する大人たちとの「継続的」な関わりから形成される要素が大きいのだと痛感します。

提言

「活動を通して」

白鷹町青少年育成推進員会
会長 齋藤 政幸



私達白鷹町青少年育成推進員会では、今年度の活動として白鷹町内コン

ピニの有害図書調査や白鷹中学校での朝のあいさつ運動、啓発活動として『ふだふだ市』にていじめ防止の標語展示とビラ配り等を行いました。あいさつ運動については活動が遅れ、十一月になってからの実施となり寒

敢えて悪く言えば、事業に参加した子どもたちがそこで学びや気付きを得たとしても、親をはじめとした周りの大人の社会性如何によっては、元の木阿弥になるということです。更に言えば、そうした事業に理解のない家庭では、子どもたちの学びや気付きの機会を、そもそも選択肢の段階で奪ってしまうということです。

多様化とは、自分に都合のいいことだけを正当化するという意味ではありません。価値観とは、狭い視野の限定的な考え方のことではありません。他者への共感と社会への貢献という、子どもたちに学んでほしいことを、まず大人が示せているのか、

い中での活動となりました。新生徒会の皆さんと一緒に行いましたが、積極的に大きな声であいさつを行う姿に元気をいただきました。

また、白鷹中学校三年生の井上愛奈さんは、第四十六回少年の主張全国大会で北海道・東北ブロック代表として発表を行い、「審査委員会委員長賞」を受賞されました。「障害を乗り越えて」と題された発表では、家族と学校の仲間に支えられながら障害を乗り越えて行く心の成長、そして自分と向き合い挑戦する姿勢と意思の強さが感じ取られ感動したところでした。

青少年育成活動の中で子どもと大

大人たち自身も、今の自分が「完成形」ではないことを自覚しながら、地域社会や職場での社会参加の場を通じ、学び、気づき、成長していくことが肝要です。

社会参加を通じて、自分自身を見つめなおす、大人同士のつながりを作る。地域行事活動やボランティアはその絶好の機会であると思うのです。

とはいえ、こうした発信をこの紙面のようないわゆる「界限」だけで発信しても実効性はありません。それぞれの地域、事業で一人でも多くの大人と共感の輪を広げ、活動をしていきたいと思えます。

人の対話会等、子どもと接する機会も増え感じた事ですが、子ども達はそれぞれ自分で考え判断し成長している様子が伺えます。県民運動では『大人が変われば子どもも変わる』をスローガンとして活動しています。大人が変わるには何をすれば良いのでしょうか？積極的に子ども達とコミュニケーションを取る事は、一つの方法として充分な意義があると感じました。白鷹町では、今年度中に『次世代未来ビジョン会議』と題して、荒砥高校生との対話会を計画しています。子ども達との対話を増やし、相互に成長できる会としたと思います。

令和六年度 各市町青少年健全育成活動

◆米沢市

米沢市では、青少年が心身ともに健やかで人間性豊かに成長してほしいという願いのもとに、地域に根ざした青少年の健全育成に取り組んできました。

八月には、いじめ・非行の防止を目的として「育てよう米沢の心・環境づくり懇談会」を開催しました。コーディネーターによる基調提案と2名のパネリストによるパネルディスカッションを行い、それぞれの立場から子ども達の現状とその原因や背景、対応策等について意見交換をしました。参加者が地域の大人としての役割を自覚できた有意義な会となりました。

十一月には、「青少年育成市民大会」を開催しました。第一中学校の和地葵羽さんの少年の主張「違いが輝く社会に」という素晴らしい発表の後、山形県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課特捜担当課長補佐の渡辺洋司氏より「現在のサイバー犯罪情勢と少年の立ち直りの支援について」と題した講演をしていただきました。最後に大会宣言をし、充実した大会とする事ができました。



令和六年度米沢市
青少年育成市民大会

◆南陽市

南陽市では、青少年健全育成事業の一つとして、小学生対象の体験講座「きらさら・EKUBOキッズ」を開催しています。



だがしや楽校
「魚釣りのおみせ」

学校区を超えた集団活動の中で他者への理解力とコミュニケーション力、協調性と主体性を育むことを目的とし、将来の地域を担うリーダー育成に取り組んでいます。

今年度は、「きらえくく」だがしや楽校」と題し、だがしや楽校の「おみせ」運営に挑戦しました。「だがしや楽校」とは、自らの特技や学びなどを見せる「おみせ」を開き、来場者と相互交流する場のことです。ダンボールフリスビー、ペットボトルボーリング、射的、魚釣りのおみせを運営する中で、自分たちより低学年の児童や幼児などをお客様として迎え、どのように楽しんでもらえるか工夫をすることで、より一層学びを深めた事業となりました。来年度も様々な事業を通して、地域ぐるみで青少年健全育成活動を継続していきます。

◆高島町

高島町青少年育成町民会議では、県民運動のスローガンでもある「大人が変われば子どもも変わる」のもと、子どもたちが健やかに、豊かな人間関係を育める町をめざして、様々な活動を行ってきました。

主な活動として、七月に和田小学校と亀岡小学校を訪問し、高島「小さな親切の会」の皆さんと一緒に、あいさつ運動を実施、十一月には町内スーパー二店舗において、青少年健全育成広報啓発キャンペーン活動として、啓発用のぼり旗を設置しポケットティッシュを配布しながら、いじめ防止や青少年の健全育成を呼びかけました。

また「置賜地区いじめ防止標語コンクール」では、当町からの応募作品が、応募総数一二、〇一五作品の頂点である最優秀に輝いたことは、当町民会議にとっても大変喜ばしい出来事でした。

今後も、研修活動や、広報啓発活動に力を入れていくと共に、青少年の健全育成に向けた活動を強化し、青少年がより安心安全に暮らせる環境づくりに力を入れていきます。



小学校での
あいさつ運動

◆川西町

川西町青少年育成推進委員会は、二年の任期を終え新たに新任二名合計七名体制で令和六年度がスタートしました。今年度は、県民運動の活動として有害図書調査、いじめ防止標語の募集等を実施してきましたが、これらの趣旨、活動をどう効果的に町民に伝えていくかに力点を置き事業展開を図ってきました。そこで一万人以上が来場した川西夏まつりや町内事業者も多数参加した産業フェア・環境フェアにおいて、本町独自デザインの県民運動のキャッチフレーズののぼりを掲げ、新しいユニフォームを着用しティッシュペーパーを配布し啓発活動を行いました。また、いじめ防止標語コンクールで入賞した本町の作品ののぼりを作成し、町内全地区交流センター、小中学校に配布しました。



川西夏まつりでの
啓発活動

本町独自事業としては、環境フェアの中で実施した自然素材を活用した子ども向けワークショップの協力や新春小学生書き初め大会を主催開催するなどし、子供たちの健全育成に努めます。

◆長井市

長井市では青少年の健全育成を推進するため、長井市まちづくり青少年育成市民会議が中心となって事業に取り組んでいます。

毎年二月には、市内中学校及び高校から四名ずつの推薦者とフォロワーとして市役所職員が参加し「長井の未来を育む少年会議」を開催しています。自ら長井市の問題検証、提案を考え、その提案に対し自分たちができることについてグループワークを行い、市長や市議に向けて議場にて発表を行うものです。

環境浄化部会では、今年度、いじめ・非行をなくそう県民運動を幅広い年代の方々に周知できるよう、長井駅前で行われたフラワー長井線まつりに合わせ、ティッシュ配りの活動を行いました。

また、家庭部会では、西置賜・市PTA連合会と共催でアドバンス助産師の相田圭子氏を招き、講演会を開催しました。子育てに関する命のあり方や性に関する正しい知識を身に付けさせる子育てについてご講演いただきました。

青少年をとりまく環境が刻一刻と変化していく中で、地域一丸となり青少年の健全育成を推進して参ります。



長井の未来を育む少年会議

◆小国町

小国町青少年育成推進員は、青少年育成推進活動や他団体と連携した活動のほか、学校と地域が連携して様々なボランティア活動を



白い森柔道大会での啓発活動

行っている組織『白い森子ども応援隊』にも参画して活動しています。

その取り組みには、大人と子どもの絆を一層深め、明るく元気な家庭や地域づくりを推進するため、五月から十月には小国地区少年補導員連絡協議会と連携し、町内小中学校にて「あいさつ運動」の展開や、七月には有害図書調査、八月には町内祭り会場にて「いじめ・非行をなくそう」県民運動の広報啓発活動及び巡回指導を実施しました。また、十一月には、昨年引き続き白い森柔道大会の会場にて、青少年健全育成キャンペーンの啓発活動も実施しました。

特に、十一月三十日に行われました白い森柔道大会では、町外から多くの子ども達や保護者が訪れ、幅広い年代と地域の方に啓発することができました。

今後も、関係機関と連携を図りながら、様々な取り組みの中で青少年健全育成を推進していきたいと考えています。

◆白鷹町

白鷹町は、今年度も次代を担う青少年の健全な育成を図るために、計画に従って事業を行ってきました。一部をご紹介します。

五月 町中央公民館にて総会を開催。会員約三十五名が参加し、事業計画を話し合った後、県家庭教育アドバイザーの小野卓也氏から『デジタルメディアとの上手な付き合い方』について講演をいただきました。子育て経験をもとに、利点と欠点の両面を分かりやすくお話いただきました。

十一月 白鷹中学校を会場にあいさつ運動を実施。生徒会役員の皆さんにも参加いただき、大変元気なおはようございます！に 私たちも元気づけられました。

一月 荒砥高校三年生との、次世代未来ビジョン会議を開催。高校生の意見から、未来に繋がるアイデアの発見があり、楽しく有意義な会議になりました。

他にも、有害図書調査やイベントでの啓発活動も実施しています。

最後に、十一月に行われた『第四十六回少年の主張全国大会』の主張二〇二四で白鷹中学校三年生の井上愛奈さんが審査委員会委員長賞を受賞されました。おそらく当町初の快挙であり、大変喜ばしく思います。おめでとう



白鷹中でのあいさつ推進運動

◆飯豊町

飯豊町では、青少年健全育成推進のため青少年育成町民会議が中心となり事業に取り組んでいます。

令和六年度は、青少年健全育成キャンペーンの一環として各地区文化祭において青少年



町民会議研修会

育成推進員・町民会議会員の協力のもとチラシとポケットティッシュを配布し、啓発活動を行いました。また、いじめの里まつりでは、青少年育成推進員による見回り活動を行いました。青少年を取り巻く環境は大きく変化しており、改めて地域と各団体が一緒になって青少年の健全育成と安心安全な地域づくりに取り組むことの重要性を再認識できたと感じております。

さらに、町民会議研修会では、山形県青年の家石井貴之研修主査より、「飯豊町の青少年ボランティアを盛り上げよう」と題し、ボランティアサークルの現状と活動についてご講演をいただきました。ボランティアを通して子どもたちが自信を持ち、社会とつながれる居場所を作ること、その仕組みづくりの大切さを改めて感じたところで、今後も将来の地域の担い手である子どもたちが生き生きと過ごすことができるよう努めてまいります。

令和六年度

置賜地区青少年育成推進員研修会

十一月二十四日(日)、高島町糠野目の生涯学習館において、置賜地区青少年育成推進員研修会が開催されました。各市町より、三十名を超える皆様の参加をいただき、有意義な研修会を実施することができました。

置賜地区青少年育成連絡協議会の山口和夫会長は挨拶の中で、SNSを介して青少年が「闇バイト」等の犯罪にねらわれていることに触れ、見守りやかわりの大切さを改めて確認しました。

▼講演

山形県警察本部生活安全部人身安全少年課少年サポートセンター置賜の安達美由紀氏より、「警察ボランティアと連携した少年の健全育成活動」と題して講演をしていただきました。



青少年が問題行動を起こす原因は、不安、寂しさ、満たされなさなどであり、事案の本質と背景を捉えることが重要です。非行に走る危険性を有しているも、社会的絆があればコントロールす



ることができま。 「好きな人がいる(愛着)」「ルールを守る(規範意識)」「居場所がある」「目標がある」などが、青少年の健全育成のために不可欠であることを強調されていました。

▼活動発表

各市町における特色ある活動を紹介していただき、学びの多い研修となりました。ありがとうございます。

○南陽市青少年育成推進員会 会長 後藤優美氏

「南陽市の青少年健全育成に関する活動について」

○高島町青少年育成推進員会 会長 清澤様氏

「教育キャンプの取り組みから」



米沢市：街頭での啓発活動

◆ 大人が変われば 子どもも変わる ◆ いじめ・非行をなくそう
各市町における 青少年健全育成 キャンペーン活動の紹介



小国町：二ノ宮公園祭りでの啓発活動



南陽市：だがしや楽校での見守りと啓発



川西町：子ども向けワークショップに協力



白鷹町：ふだふだ市での啓発活動



高島町：街頭での啓発活動



長井市：長井駅前での啓発活動



飯豊町：地区文化祭での啓発活動